

石川県医師会 J M A T 第 12 班報告書

石川県医師会長
小森 貴

東日本大震災において、お亡くなりになられた方々に深い哀悼のまことを捧げますとともに、被災された方々にお見舞い申し上げます。

石川県医師会は、被災地の方々を全力で支援するため、3月18日から福島県相馬市を中心に、すでに11チームを派遣しています。今回、第12班として、4月28日から5月2日までの5日間、現地で活動しましたので、ご報告申し上げます。

参加者

- ・小森 貴（石川県医師会長・小森耳鼻咽喉科医院・医師）
- ・由雄 裕之（由雄クリニック・医師）
- ・中出 明美（小森耳鼻咽喉科医院・看護師）
- ・中野 智恵子（小森耳鼻咽喉科医院・看護師）
- ・小森 伊早子（小森耳鼻咽喉科医院・事務）
- ・虎谷 智則（由雄クリニック・事務）

・4月28日

- ・石川県医師会理事会終了後、15時57分石川県医師会館発。自己完結型が原則とはいえ、小森、中出の二人は、3月31日ー4月6日に第5班として既に相馬市で活動しており、前回は寝袋を始め、生活用品をすべて持参しての出動だったが、今回はもう少し身軽な編成。
- ・19時頃に新潟中央インター近くのビジネスホテルに投宿。河北郡市医師会から由雄チームも同行。



・ 4月 29日

- ・ 午前 6 時出発。9 時半頃、はまなす館到着、さっそく前チームの残して下さった薬剤などの確認の後、診療開始。今回、同行して下さった由雄チームとともに、館内をご挨拶。インフルエンザ A であった、まりあちゃん、風邪で辛かった、たくみ君。抱きしめたり、抱きしめられたり、感動の再会。
- ・ 群馬県薬剤会から派遣された井上さん、福田さんが、はまなす館、保健センターの薬剤管理を体系的にしてくださり、診療も順調で感謝。
- ・ 由雄チームは中村一小、一中を中心に巡回診療。由雄先生は循環器専門医として心臓エコー、ECG も持ち込まれ、より肌理細やかで専門性の高い診療の実践を計画される。
- ・ お昼は保健センターにて、各自が吟味したカップラーメン。誰のが一番美味しいか。楽しい一時。
- ・ はまなす館デイケアルームでも、「ただいま！」のご挨拶。「金沢に用事があったので、少し留守にしていたけれど帰ってきたよ！」。我々ができる、少しだけの、心からのメッセージ。
- ・ 午後 5 時。定例となった「相馬市医師会医療救護班連絡会議」。各チームからの報告と共に、岡和田所長から、北飯淵地区で仮設住宅の入居開始の連絡。現時点では、まだ 283 名の入居ということだが、復興への確実な足音を実感。歯科診療が新しく始まったため、医科との連携を確認して終了。
- ・ 一旦、はまなす館に戻った後、福島市に投宿。明日もがんばりましょう！
- ・ 診察、18 名。
- ・ 23 時現在、帯同カウンター指標・0.001m シーベルト



• 4月30日

- 6時50分発。8時半、連絡会議。各チームの今日の活動予定報告。岡和田所長から連絡事項。北飯淵東グラウンドの仮設住宅に58戸(206戸予定のうち)が本日入居。刈敷田では72戸が本日完成。仮設住宅は、相馬市では、県事業として1,000戸、市事業として500戸、計1,500戸の予定。
- 9時20分、診療でお忙しいところを、杉本相馬市医師会長を表敬。医療救護連絡会議への出席が18日から中断されていたため、議長としての出席を再要請。過去も、現在も、長く続く復興の期間も。そして未来の相馬市民の健康といのちを守るのは相馬市医師会であることを強調。杉本会長は主旨を深く理解され、快諾。明後日から連絡会議に出席されるとのこと。
- 9時40分、診療開始。相変わらず、咳を中心とした感冒様症状の方が多し。
- 10時、只野館長、鈴木副館長から、4月18日から給食の配食が始まり、栄養環境が大きく改善されたことに感謝の言葉をいただく。私はきっかけをお世話しただけなので恐縮。
- 昼、原釜地区、松川浦地区、磯部地区、蒲庭地区を視察、いまさらながら、余りの惨状に絶句。表現する言葉を失う。お世話をさせていただく機会を持てたこと、そして支えてくださっているすべての方々に感謝。
- 14時、心のケアチーム、ならびに保健師さんから相談を受けている方の診療。由雄先生の、持ち込まれた心エコーなどを駆使した、丁寧な診察に敬意を抱く。患者さんは5月2日に公立相馬総合病院を受診予定。
私は、いつものようにデイ・サービスルームでおしゃべりタイム。
- 17時、連絡会議。所長から本日入居可能となった仮設住宅に、2割程度しかお入りにならなかったことをお聞きする。希望者とは大きく乖離する仮設住宅数がもたらす様々な問題点が浮き彫りに。
明日の連絡会議で、この問題に対応する心構えを心のケアチームからアドバイスをお願いする。
相馬市で診療所を開設していらっしゃる金田先生が、ご友人とオブザーバー

参加。

- 20時、福島市に投宿。
- 診察、18名。
- 22時半現在、帯同カウンター指標・0.004mシーベルト。



• 5月1日

- 6時50分出発。8時30分、「相馬市医師会医療救護班連絡会議」。39名参加。静岡県チームから、難聴の児童について対診依頼。ステロイド処方したが適切か？など。今日は日曜日なので石川チームが対応。その後は相馬総合病院耳鼻咽喉科専門医と連携の予定。
- 心のケアチームには東京医科歯科大学から新しく3名。支援に当たっている市職員の方々に関する対応（行政職の休みが取れていない）。住民に放射線のことを気にしていらっしゃる方がいることへの対応。様々なストレスがある中で、より丁寧な対応を指示される。
- 歯科医師チーム、自治労、奈良県、福岡市からの保健師のチームとの協働を確認。薬剤師は群馬県から栃木県に交代。
- 岡和田所長から第101回対策本部報告。仮設住宅でのコミュニティの存続の維持について。磯部地区での住宅建設を含め、職員で構想するよう指示があったこと。明日から消防団員には通常の勤務となること。アリーナで、ボランティアが責任者となっている件。南相馬市で医療機関がかなり稼動。しかし、30km圏内での入院が禁じられているため、相馬市での病床が維持困難。南相馬市での、30km圏内みなしがはずされる予定であることから、南相馬市で100床確保できる可能性。放射線測定については、「広報そうま」で広報しており、避難所で掲示されるので参考とされたい。水道水については、5箇所の水源地で検査しているが、放射能物質は検出されていないなど、重要な情報交換。
- 9時10分、はまなす館。パニック障害、咳など感冒様症状、不眠など、長い避難所生活からくる様々な症状への対応。

- 11時45分、はまなす館での昼食を視察。入居者への食事がいかに改善されたかを実感。相馬市長、関係者のご尽力にあらためて感謝。
- 13時20分、立谷相馬市長、表敬。
- 13時半、依頼されていたアリーナ、さらには中村一小の耳鼻咽喉科疾患患者への対応を含め、診療。
- 15時、早川福島県医師会理事がご挨拶にこられる。
- 16時、あいかわらずデイサービス・ルームでのおしゃべりタイム。途中でまりあちゃんと抱きしめあい。
- 由雄チームは中村一小・一中を中心に活動。静岡チームからの依頼にも丁寧に対応（詳細は由雄先生からのレポートをご覧ください）
- 17時、連絡会議。39名参加。各チームからの報告と共に、連携の重要性を再確認。心のケアチームは仮設住宅周辺に窓口設置を検討。歯科医師チームは、はまなす館で活動。
- 岡和田所長から第102回対策本部報告。
心のケアチームの一員として活動されている、慶応大学精神神経科学三村教授から「仮設住宅入居に関する諸問題」について提言を頂く。ルールに従って5分間のご示唆。参加者全員が深い感銘を抱くと共に、新しい決意。
- 19時15分、福島市に投宿。
- 診察、22名。
- 22時50分現在、帯同カウンター指標・0.008mシーベルト。



- 5月2日
- 6時45分発、8時半、連絡会議。42名参加。杉本相馬市医師会会長が議長として、ご挨拶。仮設住宅建設、入居も始まり、徐々に地元の病院・診療所をはじめとする医療システムへの移行のため。あらためて、議長としてご就任の確認。毎週、月曜日、8時半の連絡会議に出席されるとのこと。
各チームから本日の活動予定報告。
- 岡和田所長から第103回対策本部報告。

5月1日現在、相馬市内避難所登録者数。はまなす館、376名。中村一小、78名。中村一中、101名。(以上石川県JMA T担当) スポーツアリーナ、117名。飯豊小、44名。中村二小、150名。中村二中、99名。向陽中、104名。計1,069名。

- 最後に、私から、志、見識、情熱、ともに素晴らしい方々と一緒に任務できたこと。ならびに相馬市職員、市民の方々に感謝を申し上げ、石川県医師会が相馬市周辺の住民のため、これからも全力を尽くして支援していく決意を述べた。杉本相馬市医師会長、岡和田所長と固い握手。
- 9時15分、はまなす館にて診療。
- 11時診療終了。第13班に引継ぎの書類などを整理。只野館長、鈴木副館長に御礼のご挨拶。デイサービス・ルームの方々にもご挨拶。
- 相馬市から福島市への115号線の途上、満開の桃畑。相馬にも、遅い春が、それでも着実にきていることを実感。
- 14時、高谷福島県医師会長、表敬。本報告書を提出し、任務終了。
- 20時30分帰着。みんな元気です。お疲れ様でした。走行距離1,049km。お支えくださった方々に深謝します。
- 診察、9名。
- 帯同カウンター指標・0.012mシーベルト。

